



立教  
186  
年

謹賀新年



発行  
天理教本愛大教会

〒 453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
MAIL mail@hon-ai.org  
〒 632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広報部

春季大祭

1 月 13 日  
午前 10 時

本愛大教会

年頭あいさつ

本愛大教会長

安藤 吉人

新年明けましておめでとうございませう。

旧年中は「今日を陽気に。」の活動目標のもと、本愛大教会の活動の上にたくさんの方の真実を寄せていただき、誠にありがとうございました。

本年は教祖百四十年祭活動1年目の年になります。本愛大教会としては、

「今日を陽気に。つながる、つなげる。」

と活動目標を進化させ、それぞれがおやさまに、おどばに、教会に心をつなぎ、新しいつながりをつくる努力をし、目の前の一人ひとりを大切に、陽気ぐらし世界を実現できるよう、教祖年祭に向かっ、さらには本愛大教会創立百十周年に向かっ、楽しんで道を歩ませていただきたいと存じます。

本年も何卒よろしくお願ひします。

# 現代に生かす

## 「用木の道」

文・安藤吉人



今月はみかぐらうたについては一息お休みして、本愛大教会に伝わる書籍『実践教理集』についてふれてみたいと思います。

『実践教理集』は昭和52年、初代会長様の20年祭の記念品として発刊されたものです。『みかぐらうた講話』や『信の生涯』などもとにしつつ、当時のようぼく・信者が直接お仕込みいただいたお諭しや教理などを、編者の佐藤正康先生がまとめられました。

この『教理集』では、身の上にお見せいただくさまざまな病気や障りを、呼吸器科や消化器科、脳神経科など19の科に分けて、病気や症状を一つひとつ挙げて、



それぞれについて初代会長様が悟られた心遣いの誤りや直すべき癖性分などを記しています。

初代会長様が直接書かれた「はしがき」には、「元来、本愛系部内教信者のみに参考とせる教理の一端を披瀝したるに過ぎず、願わくば、他への頒布ご遠慮あらんことを望みます」として、あくまでご自分の悟りであることを強調しておられます。

### 「本愛の宝だ」

ところで、本愛大教会では現在、毎月の神殿講話に本愛以外の教会長やようぼ

くの方々をお招きしていただきます。先日ご登壇いただいたある企業経営者の先生は、坐骨神経痛を長い間患っておられたそうです。

「この身上を通して、親神様はどういう心遣いの間違いを伝えてくださったているんだらう」と、その先生が以前私に聞いてくださったので、『教理集』を開いてみると、坐骨神経痛の項目には「動かずして人を使い、小言多く、先方の心を苦しめたる理」と書かれていました。

目上の人に向かって私からこれを伝えるのは少し気が引けたので、「本愛の初代会長のお諭しがあるのですか?」と聞いてみたら、「教えてほしい」と。経営者ならば人を使うのは当たり前にも思えますが、その方はこのお諭しを聞いて、自分のあり方を深く反省されたそうです。早速、親神様にお詫びを

申し上げたところ、手術まで考えていた神経痛の痛みが「5日でピタッと止まった」と連絡してくださいました。

「この教理集は本愛の宝だ。絶対に毎日読むべき。それを年祭活動にしてもいいんじゃないか」とまで、おっしゃっていました。

お諭しというのは難しいもので、互いに信頼できる人間関係が築けていない状態では、なかなか相手の心に入っていくかと思いません。また、『教理集』はあくまで初代会長様の悟りであって、それぞれが自らの心を見つめ直して反省するということが最も大切であることは忘れてはいけません。

部分だと思えます。それでも、こうして本愛に受け継がれてきた教理を、どうすれば現代に生かしていただけるか。今の社会でどう広げていけるか。新年から考えていきたいと思えます。

早く、親神様にお詫びを

### 1月のこよみ

#### 元日祭

1日 午前5時

#### よふき会初例会

2日 午前10時

#### 本部お節会

5日〜7日

#### 教会長年頭連絡会

12日 午前10時30分

#### 論達本部巡教

12日 午後1時30分

#### 春季大祭

13日 午前10時

#### 青年会初例会

13日 午前10時

#### 布教実修所

14日 午前10時

#### ほんあいOK E I K O

15日 午前10時

#### むつみ会初例会

16日 午前10時

#### こども食堂MOG U

17日 午後5時

#### 婦人会初例会

20日 午前10時

#### こはる会初例会

20日 午前10時

#### 女子青年初例会

20日 午前10時

#### 本部春季大祭

26日 午前11時30分

教理随想

言わん言えんの理を探る



いよいよ教祖百四十年祭へ向かう三年千日のスタートです。この旬に大教会から『今日を陽気に。つながる、つなげる』との活動目標が発表されました。いつも陽気な心でつながる縁を大切にし、さらに多くの人と新しい縁をつなぎながら、教えを広める実践が求められています。そのためにはまず自らが教祖のお心に近づいて、教えを深めていく努力が欠かせません。

教祖の逸話に次のようなお話があります。

【第 97 回】

我が心に喜びを見出し、  
たんのうの信仰を養う旬

明治十五年頃、足腰が立たないところを教祖にすつきりと救って頂いた、大和国倉橋村の山本いさという婦人が、今度は手のふるえをたすけてもらおうと思いを、お屋敷を訪ねると教祖は、「息をかけるはいと易い事やが、あんたは足を救って頂いたのやから、手の少しふるえるぐらいは何も差し支えはしない。すつきり救ってもらうよりは、少しぐらい残っている方が前生のいんねんもよく悟れるし、いつまでも忘れなくて、それが本当のたすかりやで。人、皆、すつきり救かる事ばかり願うが、真実救かる理が大事やで」とお諭しく下さいました。

(教祖伝逸話篇一四七)本

当のたすかり) 私たちは普段の生活で身上や事情に遭遇すると、まづ病の完治や事情解決に心が向いてしまいます。もちろん痛みや苦しみを伴うのであれば、それを抑えるための策を講じなければなりません。病氣平癒や事情解決だけが信仰の目的ではありません。大切なのは、身上や事情をきつかけとしいかに我が心をつくり、成人していくかという点であり、逸話を通して教祖は心づくりの大切さをお教えくだされているのです。

では心をつくるとは、具体的に何を意味するのでしようか。それは一言で言えば「喜びを探して増やす」ことです。

一般に喜びとは、望みが叶ったり悩みが解決した時に味わうものです。もちろん、それも親神様のご守護ですから大いに喜ばばよいのですが、その境地からさらに一歩進んで、外から与えられる喜びだけでなく、自分の周囲に、自らの努力で喜びを探し求めて送る日々。これが最も重要な点だと言えるでしょう。

喜びにくい状況や、辛い出来事の中に喜びを見出す心の治め方を、教祖は「たんのう」と教えられました。それは単なる我慢やあきらめではありません。たとえ最初は我慢から始まる場合でも、心の向きを喜びへ喜びへとつないでいく姿勢が大切なのです。

ながるべき物が切れてしまふ運命となり、反対に喜びを探し求めてたんのうの信仰を心に治めようとする人は、縁が思うようにつながらないという意味です。幸せとは、つながるものと切れるものによつて決まるといつてもいいかもしれません。自分の心の使い方一つで、つながるべき縁がつながり、切れていくべき縁がすつきり切れて、我が運命が好転していく。これがお道の信仰の神髄であり、有難さであります。

「心をつくる」というと漠然としていて、何をどうすれば良いのか分からないままま過ごしてしまいがちですが、それでは天に届く理にはなりません。親神様に常に心をつないで、そこから小さな喜びを見出し、新しいつながりを求めて、その縁から喜びを世界へ映していきましょう。これが三年千日の歩み方であります。

また「不足は切る理、たんのうはつなぐ理」とも教えられます。これは起きてきた出来事に対して、不満や愚痴・不足の心を多く使っている人は、本来つ

ながるべき物

総会開催

婦人会本心委員部(長江まどか委員長)では、11月23日午前10時より、安藤ちかひ・本愛支部長を迎えて、同分教会において「第61回婦人会総会」を開催した。

女子青年大会

本愛からは35人が参加  
婦人会本部では11月27日、本部中庭で「第30回女子青年大会」を開催した。当日は、国内外から約9千500人の会員が参集。挨拶に立たれた中山はるえ婦

人会長は女子青年としての心構えなどを諭された。

また、本愛女子青年からは35人が参加。総会後は、詰所に移動し、記念行事「支部のつどい」を行った。

11月の初席者

- 本海部 安井 希和
- 本愛岳 秋山 大貴
- ” 佐野倫太郎
- ” 称津晴之亮
- ” 金子 明夢
- ” 中澤 日瑚
- 山本 恵美
- 以上7名

おめでた

板山治彦さん(26) (本濱松分教会長・板山眞一氏長男)は、落合由貴菜さん(26)との縁談相整い、去る12月4日、本濱松分教会教祖殿において、夫婦固めの盃をかわし華燭の典を挙げた。

お出直し

和光優太さん(32) (本御重分教会長・和光重男氏長男)は、大海美里さん(34)との縁談相整い、去る12月4日、本御重分教会教祖殿において、夫婦固めの盃をかわし華燭の典を挙げた。

佐藤幸夫氏 (大教会理事・本築分教会三代会長)

12月17日に出席された。享年82歳。告別式は12月20日午前10時より大教会長を齋主として執り行われた。

氏は大教会理事、詰所主任、祭事部長などを務めた。

事情おはこび  
(令和4年11月26日付)



出口順一郎氏

(出口氏の略歴)

本道橋分教会

◎任命願

前会長・出口順英氏の辞職に伴い、出口順一郎氏が会長の理のお許しを戴いた。

昭和56年3月27日生まれ  
平成11年1月10日おさづけの理拝戴  
平成23年12月24日教人登録  
〔奉告祭〕令和5年1月29日

大教会日誌

令和4年11月25日～令和4年12月24日

11月

- 26日 本部月次祭
- 27日 第30回女子青年大会  
ほんあいOKEIKO (参加者7人)
- 30日 常任役員会議◇役員会議

12月

- 1日 入社祭  
祭主・大教会長 扨者・大橋進、田中新一  
指図方・安藤正二郎 賛者・津田豊郎、山本治行  
◇祭典講話—中島功雄
- 2日 よふき会例会  
おつとめ・十二下りてをどり
- 12日 常任役員会議

13日 月次祭

- 祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、吉田克義  
指図方・安藤正二郎 賛者・安井篤、杉下和平  
◇祭典講話—教会本部ようぼく・西浦正親先生  
◇大教会長挨拶

14日 布教実修所

おはなし会

16日 むつみ会例会

17日 こはる会例会

女子青年例会

こども食堂MOGU (参加者58人)

18日 ほんあいOKEIKO (参加者17人)

20日 婦人会例会